日本語の題名（タイトル）

- 日本語の副題（あればここに記入） -

筆頭著者氏名\*1、第二著者氏名\*2、
第三著者氏名\*3

\*1筆頭著者所属、\*2第二著者所属、
\*3第三著者所属

This is the Title in English

- Sub-title Here If Any -

First Author\*1 , Second Author\*2 , Third Author\*3

\*1 Affiliation for the first author , \*2 Affiliation for the second author,
\*3 Affiliation for the third author

Abstract in English comes here.

Keywords: Please input 3 to 5 keywords in English.

# 1.テンプレートについて

このMicrosoft Wordファイルは、第42回医療情報学会連合大会の詳細抄録作成用の原稿テンプレートである。ここに記載されている内容を参考に、詳細抄録を作成すること。**一般演題の方は、メールでお知らせした受付番号（C00000）をファイル名に必ず入力してください。**

# 2.詳細抄録入稿について

詳細抄録入稿の際はWordファイルと、フォントを埋め込んだPDFファイルを必ず添付すること。詳細抄録を集めた論文集は入稿されたPDFをそのまま使用するため、指定されたフォントを使用すること。指定以外のものを使用し、フォントが埋め込まれていないPDFを入稿した場合は、文字化けや文字抜けとなる場合があるので、注意すること。

【埋め込みPDF作成方法】PDF作成ソフト(Adobe Acrobat、Just PDF、いきなりPDF等々)をインストールしている場合はプリンターに仮想PDFプリンターを選択し、"最高品質"や"印刷品質"などの設定で保存すれば、埋め込み可能なフォントを全て埋め込んだPDFが作成される。プリンター選択に仮想PDFプリンターが表示されない場合は、各自の環境に応じて対応すること。

MS以外のフォントを使用してもPDFで当該フォントが埋め込まれている場合は可とする。

# 3.執筆要領

サイズはA4縦、余白は上下25.4mm、左右19.05mmとする。タイトル等は1段組、本文以下は図、表を含め2段組とする。段の幅は25.32字、間隔は3.51字とする。

タイトル等は次の順で記述する。題名、副題、著者名、所属機関名（以上日本語）、英語題名、英語副題、英語著者名、英語所属機関名、Abstract、Keyword（3～5個）。

その次に本文を記載する。図表は、本文中に適宜挿入する。参考文献は最後にまとめて記載すること。

# 3.1 標題・タイトル

日本語の標題で使用するフォントは MS Pゴシック、英語の標題で使用するフォントは Arialとする。それぞれ、フォントサイズは14ポイントとする。段落の行間は固定値とし、間隔を16ポイントとする。英語の標題の段落前は6ポイントのスペースを空け、段落後はスペースを空けないこと。

# 3.2 副標題

日本語の副標題で使用するフォントは MS Pゴシック、英語の副標題で使用するフォントは Arialとする。それぞれ、フォントサイズは12ポイントとする。段落の行間は固定値とし、間隔を14ポイントとする。副標題の段落前後はスペースを空けないこと。

# 3.3 著者名と所属

日本語、英語共に、著者名の後に上付き文字で \*1 のようにアスタリスク(\*)+番号により、所属を示す番号を記載する。また、所属の前には、上付き文字ではなく、通常の書体で \*1 のように著者名と対応した番号を記載する。

複数の著者名を入れる場合、日本語は「、」で区切る。英語は「, 」（カンマ＋半角スペース）で区切る。

日本語の著者名・所属で使用するフォントは、MS P ゴシックとする。英語の著者名・所属で使用するフォントは Times New Romanとする。それぞれ、フォントサイズは10ポイントとする。段落の行間は固定値とし、間隔を13ポイントとする。段落前は4ポイントのスペースを空け、段落後はスペースを空けないこと。

# 3.4 Abstract

全体で200words程度で記すこと。

Abstractで使用するフォントは Times New Romanとする。フォントサイズは10ポイントとする。段落の行間は固定値とし、間隔を12ポイントとする。段落前は6ポイントのスペースを空け、段落後はスペースを空けないこと。

# 3.5 Keyword

最初に「Keywords:」の文字を入れ、続いてキーワードを英語で3～5語記載する。単語と単語の間は、「, 」（カンマ＋半角スペース）で区切る。なお、キーワードはMEDLINEデータベースのキーワード用語集「Mesh (Medical Subject Headings)」を参考とすることが望ましい。

Keywordsで使用するフォントは Times New Romanとする。フォントサイズは11ポイントとする。段落の行間は固定値とし、間隔を12ポイントとする。段落前は6ポイントのスペースを空け、段落後はスペースを空けないこと。

# 3.6 本文

本文は原則として、緒論、目的、方法、結果、考察、結論、文献の順に記す。必要に応じ謝辞を記す。また、システム開発等では、緒論、開発目的、システム概要、システム評価、考察、結論、文献の順に書く。

本文で使用するフォントは、和文の場合はMS P明朝、英文の場合はTimes New Romanを用いること。フォントサイズは9ポイントとする。段落の行間は固定値とし、間隔を12ポイントとする。最初の行は、1文字分の字下げを行う。

# 3.7 見出し

見出しは半角数字を使い、「1, 1.1, 1.1.1」のように3段階まで表記する。見出しの番号と文字の間は半角スペースを入れること。

フォントは全てMS Pゴシックとし、フォントサイズは全て11ポイントとする。

# 3.8 図表

図表タイトルには、図1、図2、表1、表2のようにそれぞれ連番とタイトルをつけること。図のタイトルは図の下方に、表のタイトルは表の上方につける。表作成時の例として、使用するフォントをまとめたものを表1に示す。

表1 使用するフォントのまとめ

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項目 | フォント | サイズ |
| 題名（日本語） | MS Pゴシック | 14ポイント |
| 副題（日本語） | MS Pゴシック | 12ポイント |
| 著者名（日本語） | MS P 明朝 | 10ポイント |
| 題名（英語） | Arial | 14ポイント |
| 著者名（英語） | Times New Roman | 10ポイント |
| Abstract | Times New Roman | 10ポイント |
| 本文 | MS P 明朝 | 9ポイント |

原則として、図表は1段に収まるようにレイアウトすること。収まらない場合は、巻末に記載する。また、図表中で使用するフォントは、見読可能となるよう、極力、本文と同程度の大きさに調整すること。図1に例を示す。



図1　図を挿入した例

図を挿入する場合は、図の下（このエリア）のキャプションを記載する。フォントはMS P ゴシック、サイズは9ポイント。

図表のタイトル・説明で使用するフォントは、MS P ゴシックまたはMSゴシックとし、フォントサイズは9ポイントとする。段落の行間は固定値とし、間隔を12ポイントとする。段落前は4ポイントのスペースを空け、段落後はスペースを空けないこと。

# 3.9 参考文献

参考文献の書き方は、機関誌「医療情報学」に準ずることとする。文献の項の書式は、バンクーバー・スタイル（the Vancouver style）に従うものとする。

参考文献は、本文該当部の右肩に、引用順に番号を片括弧で記し、本文最後の参考文献の項に整理して記す。

参考文献で使用するフォントは、和文の場合はMS P明朝、英文の場合はTimes New Romanを用いること。フォントサイズは8ポイントとする。段落の行間は固定値とし、間隔を10ポイントとする。

本テンプレートの最後の参考文献に、例を示している。なお、ここに示す例は、機関誌「医療情報学」の執筆要領より得たものである。

# 3.9.1 雑誌の場合

雑誌の場合は、著者名. 題名. 雑誌名 発行年；巻：通巻ページ（始め－終わり）. とする。1) 2)

参考文献の1) 2)に例を示す。

# 3.9.2 書籍・単行本の場合

書籍・単行本の場合は、著者名. 題名（編者名）. 書名. 発行地（外国の場合のみ）：発行所, 発行年：ページ（始め－終わり）. とする。3) 4)

参考文献の3) 4) に例を示す。

# 3.9.3 著者名

著者名が6名以下ならば全員を記す。7名以上の場合は最初の3名のみを列記し、それに「ら」を、英文の場合は“et al.”を付記する。著者名と著者名の間にはコンマを入れる。日本人著者名は、姓と名を書く。

# 3.9.4 雑誌名

雑誌名については、略式雑誌名のあとに省略記号（.）をつけない。これについても、参考文献の例を参照されたい。

# 3.9.5 オンライン上の文献

オンライン上の文献の場合は、著者名. 題名. 発行地（外国の場合のみ）：発行所, 発行年［URL（引用した年―月―日）］を記載する。5) 6)

参考文献の5) 6) に例を示す。

# 参考文献

1) 多仲浩志. 医学・生物学における数学論理. 医療情報学 2008 ; 28 :13-26.

2) Tanaka K, Hara K. Estimation of location and size of myocardial injury site from body surface potential distribution using ECG inverse solution. Jpn Heart J 1986 ; 27 : 235-44.

3) 貝原益軒, 井上　馨, 郷邑要市. サブルーチン問題. 応用数学講座. 岩波書店, 1993.

4) 桂　太郎. 医療情報の標準化. 新版医療情報「医療情報システム編」. 篠原出版新社, 2009 : 224-40.

5) Hooper JF. Psychiatry & the Law: Forensic Psychiatric Resource Page. Tuscaloosa: University of Alabama, 1999.

　　[http://bama.ua.edu/~jhooper/ (cited 2007-Feb-23)].

6) 標準的電子カルテ推進委員会. 最終報告. 厚生労働省医政局研究開発振興課, 2005.

　　[http://www.mhlw.go.jp/shingi/2005/05/dl/s0517-4b.pdf (cited 2011-Nov-11)].

# 3.10 箇条書き

箇条書きについては、以下の種類を、必要に応じて体裁を考慮して利用すること。

1, 2, 3, …

a, b, c, …

A, B, C, …

i, ⅱ, ⅲ,…

I, Ⅱ, Ⅲ, …

# 3.11 スタイル

各項目の書式要素は、メニューの「ホーム」タブにある「スタイル」に登録されている。文字入力後、範囲指定してスタイルを選択すると、そのスタイルに記載されている項目の書式が適用される。

# 4.頁数制限

頁数は2ページ以上、6ページ以下とすること。

# 5.提出期限

詳細抄録の記載方法についてまとめた。詳細抄録は、期限内に提出すること。